

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西与賀小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

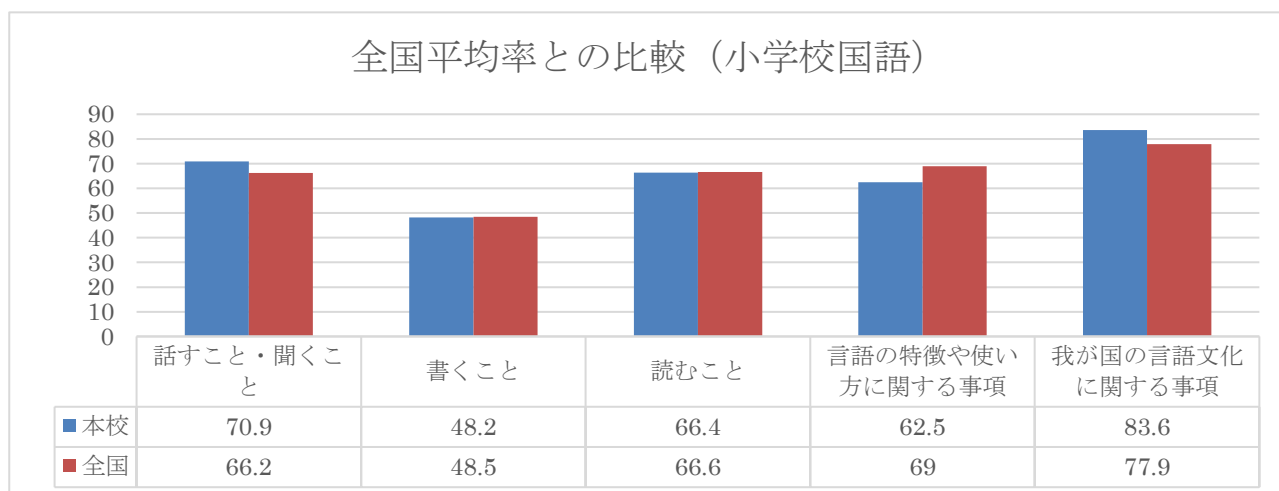
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」「我が国の言語文化に関する事項」は全国平均正答率を上回る結果でした。「読むこと」「書くこと」は、全国平均正答率と同等の結果でした。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっており、何とか解答しようという好ましい態度が表れています。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」「言語文化に関する事項」が全国平均を上回りました。その中でも、必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える力が伸びました。日頃から、子供たちに学習課題を提示し、「問い」を解決していく学習を積み重ねている成果だと捉えています。一方で、「言語の特徴や使い方に関する事項」が、全国平均より6.5ポイント下がりました。実際、漢字を文の中で正しく使うことを苦手になっている児童が多くいます。日頃から、学習した漢字を進んで使って、文章を丁寧に書くことが必要です。さらに、音読をすることで文脈に合った漢字の使い方を理解することも重要です。授業の中では、今以上に、教科書の音読や詩集の暗唱の指導にしっかり取り組んだり、書く活動の時には、習った漢字を使うように指導したりすることが必要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

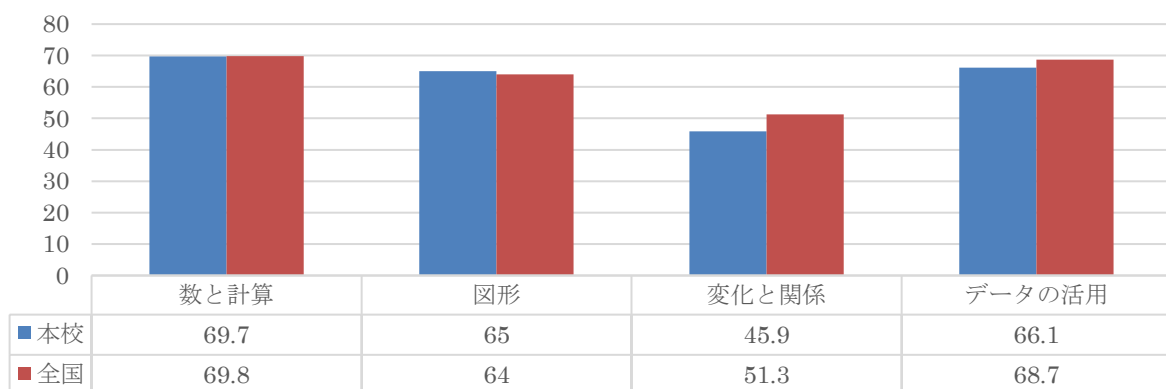
- 子供が主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙を増やします。
- 授業場面で、インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を設定します。

【ご家庭では】

- これまで通り、音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科・総合や特活等の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな分野の本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や書店に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数

全国平均率との比較（小学校算数）



(1) 結 果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「図形」の領域で全国平均を上回っていました。「変化と関係」の領域では全国平均との差が一番大きかったです。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっており、何とか回答しようという好ましい態度が現れています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「B 図形」の領域の示されたプログラミングでかくことができる図形を選ぶ問題の正答率が全国平均正答率を約 8 ポイント上回っていました。また、「A 数と計算」の領域の 2 つの数の最小公倍数を求める問題の正答率も全国平均正答率を約 10 ポイント上回っていました。

一方、記述式の問題や必要な情報を選んで解く問題は課題が見られました。日々の授業で問われていることを焦点化したり、自分の考えを書く活動や自他の考えを説明する活動を継続して取り入れたりして、筋道を立てて考えさせることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

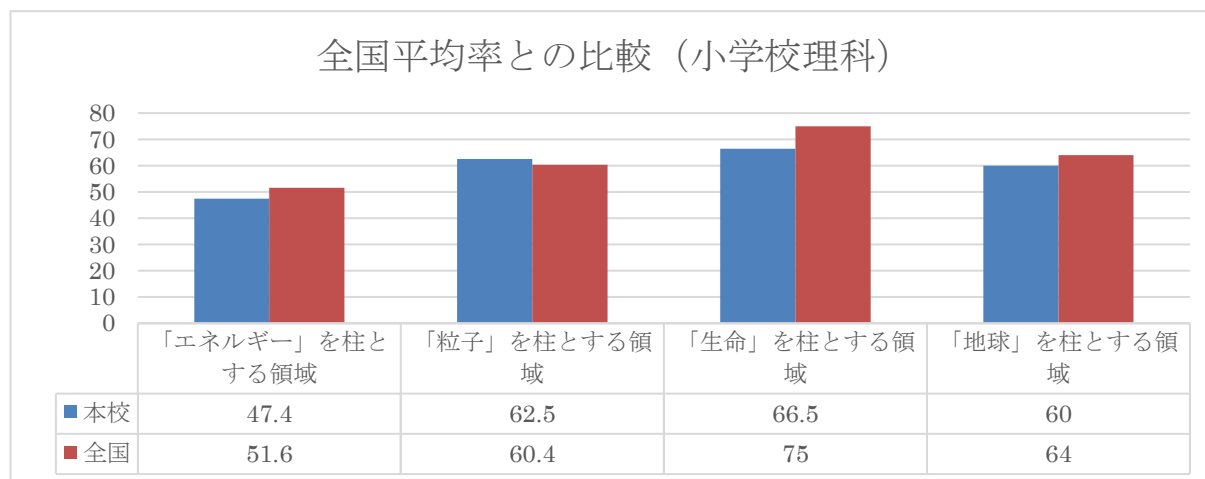
【学校では】

- 式から答えを出すだけではなく、目的に合わせて必要な情報を読み取ったり、使ったりできるように、日常の具体的場面と図や表、図や表と数や式、数や式と具体的場面を行き来させて、考えることができるようにします。また、既習の知識を使いながら、式の意味を考えさせ、1 つ分の大きさやいくつ分などの関係を捉えられるようにします。
- 多面的な見方や考え方ができるように、話し合う活動を取り入れていきます。また、図や式や言葉を使って自分の考えを書いたり、友達の考えを説明したりして論理的に考える力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。特に、四則計算については、繰り返し練習していくことが大切です。
- 算数を好きになったり、得意にしたりするには、日常の生活場面で□個ずつ、□円、□cm、□gなどの数量の感覚を身につけておくことが有効です。少し意識するだけで、買い物や調理の手伝い、時刻を読む、物を分けるなどの身の回りの生活の中で、算数が使え場面がたくさんあります。「習ったことを生活の場面で使えて便利」「家でできたことがある」など算数と生活がつながる経験が増えるとよいと思います。

3 理科



(1) 結果

「粒子」の領域では、全国平均を上回っているものの、その他の領域では下回っています。特に、「生命」の領域で全国平均を大きく下回っています。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっており、何とか解答しようという好ましい態度が現れています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「粒子」の領域の水溶液の凍り方について、実験の結果を基に、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対するまとめを選ぶ問題の正答率が全国平均正答率を4.5ポイント上回っていました。また、実験の結果から問題の解決に必要な情報（記録）を選ぶ問題の正答率も全国平均正答率を7.4ポイント上回っていました。一方で、「提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつこと」や「問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして考えを記述する」問題が全国平均正答率を下回るなど、「記述式」の問題で課題が見られました。日々の授業で説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「この時間に学習すること」として示したり、考察場面や発表場面などで互いに出し合ったりすることにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになるコツは、「ふしぎ」を大切にすることです。科学的な思考を問われる理科は、「なぜこうなったのか?」「こうするとどうなるか?」という謎解きのようなものです。本校は、理科の自由研究に取り組む子が少ないです。夏休みなど長期の休みを利用して、お子さんと一緒になって日常にある科学の謎を一緒に考えてみるのもよいと思います。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館、そして西与賀小校区の星空学習館などのイベントちらし等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味・関心が向上すると思います。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	75.4%	84.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	40.4%	40.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	50.9%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	31.6%	39.4%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	15.8%	27.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	68.4%	75.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	82.5%	83.9%

朝食・起床・就寝については全国平均を下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。挑戦心や規範意識の項目については、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも低い結果が出ています。学校では、学習や生活の場面で、子供に出番や役割を与えているか定期的にチェックし、まんべんなく活躍の場を準備するようにし、成し遂げたことを給食の時間に「ほめほめタイム」として紹介し、自己肯定感や自己効力感を高めていきます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	12.3%	27.5%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	1.8%	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	5.3%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	19.3%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	54.4%	25.8%
「30分より少ない」	14%	10.5%
「全くしない」	5.3%	4.2%

家庭学習については全国平均を大きく下回っております。1時間未満の児童が7割を超えています。家庭訪問で配布した「家庭学習の手引き」をもとに家庭学習の意味を引き続き継続して伝えていきます。また、小中連携（城西本気学園）での取組の一つである「家庭学習（自学頑張り）強化週間」を積極的に活用し、家庭学習の充実を図っていきます。ご協力をお願いいたします。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学習習慣を身につけられるように毎日学年に応じた「宿題」を出しています。あわせて、各学年の家庭学習時間の目安を示しています。自主学習（自学）についても中学年以上で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。ぜひ、ご家庭でも励ましてください。
- 始業前（8：05～8：15）の朝の読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベント（「図書館まつり」）をしたり、「あしのご読み語り」による読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。効果が現れてきているので、これからも継続していきます。

【ご家庭では】

- 家庭学習の習慣に向けて、「学ぶ雰囲気をつくる」「生活のリズムを整える」「小さながんばりをほめる」「家族の対話を大切にする」この4つをぜひ、ご家庭でも心がけてください。4月の家庭訪問で担任からお渡しした佐賀県教育委員会「家庭学習の手引き」にも多くのポイントが記載されています。この「手引き」については、本校ホームページにも掲載しておりますので、ぜひご参照ください。